

近畿地域における伏見とうがらし有機栽培法

京都府農林水産技術センター 生物資源研究センター

堆肥・有機質肥料施用による肥培管理技術、既存の生物防除剤等を組み合わせた生物的病虫害管理技術を現地トウガラシ農家に導入し、京の伝統野菜である「伏見とうがらし」の有機栽培体系を検討しました。

1 背景

- 近年、京都府内のトウガラシ栽培農家の多くで有機栽培への志向が高まっています。
- そこで、トウガラシ有機栽培で想定される各種堆肥や有機質肥料などの資材を用いて、慣行栽培と同程度の収量を確保することが可能となる施肥体系を検討しました。
- また、既存の生物防除剤(天敵農薬等)を用いた病虫害防除法の効果を検討しました。

2 詳細説明

- トウガラシの期間別窒素要求量、施用有機物の窒素分解率を元に、土壤中に残存する窒素量に応じた有機物施用マニュアルを作成しました。これにより、土壌窒素の増加を抑制しつつ、慣行栽培と同程度の収量性を確保することが可能となりました。
- JAS有機基準に適合した既存の生物防除剤を計画的に用いることにより、主要な病虫害の発生を抑制する防除体系を確立しました。

3 伏見とうがらしの有機栽培暦

		資材	12月			1月			2月			3月			4月			5月			6月			7月							
			上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下					
作業					耕畝 ま 立ル 耘てチ		定植						収穫																		
施肥①		基肥:牛糞バーク堆肥(kg/10a)				890																									
		追肥:棉実油粕(kg/10a)								150			125			150		150			150			150							
施肥②		基肥:牛糞バーク堆肥(kg/10a)				380																									
		追肥:有機液肥(kg/10a)							1	3	8	3	7	8	11	11	11	11	19	19	25	19	13	6	6	6					
病虫害防除	うどんこ病	硫黄粒剤						くん煙(電気加熱式くん煙器 1日2〜3時間)																							
	アザミウマ類 コナジラミ類 アブラムシ類	ボタニガードES						◎	◎																						
	アザミウマ類 コナジラミ類 チャノホコリダニ	スワルスキー(スワルスキーカブリダニ)								◎																					
	アブラムシ類 コナジラミ類 ハダニ類	サンクリスタル乳剤 アーリーセーフ									◎	◎	◎	◎	初発確認後、直ちに3〜7日毎に3〜4回散布																
	アブラムシ類	ナミトップ(ナミテントウ)												◎	初発確認後、上記薬剤でアブラムシ類密度をできるだけ下げてから放飼 テントウムシの活動が阻害されるので、上記薬剤との同時使用は避ける。																
		アフィバール、アブラバチAC、 コレトップ(コレマンアブラバチ)												◎	◎	初発確認後、発注してナミトップと同時あるいは数日後に放飼															
	ハダニ類	スパイカルEX(ミヤコカブリダニ)																			◎										
	その他	防虫ネット(0.4mm)			◎																										
		粘着板あるいは粘着シート(黄、青)						◎																							

注)有機物施用量は、24年度現地実証試験圃場における実際の施用量



基肥:牛糞バーク堆肥



追肥:棉実油粕、有機液肥



粘着板による発生状況確認



天敵農薬



問い合わせ先: 京都農技セ生資セ 津田和久 e-mail tsuda@kab.seika.kyoto.jp